

# 情報公開文書

研究の名称	難治性緑内障に対するBG102-350バルベルト緑内障インプラント手術の2重フラップ法 における術後5年間に於けるインプラントチューブ露出頻度の検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院 眼科 林 篤志
研究の概要	<p>【研究対象者】 富山大学医学部附属病院で BG102-350 バルベルト緑内障インプラント手術を受け、5年以上経過観察された難治性緑内障患者さん</p> <p>【研究の目的・意義】 バルベルト緑内障インプラントは従来の緑内障手術である線維柱帯切除でも眼圧を下げるできない症例や眼の状態が悪く従来の線維柱帯切除ができない患者さんに行う難治性緑内障に対する緑内障手術です。当院では難治性緑内障に対してバルベルト緑内障インプラントが眼圧下降という点で有効であることを報告していますが、インプラントしたチューブが露出してしまう合併症もみられています。チューブが露出してしまうと、そこから眼内の房水が漏れ、低眼圧をおこし、視力不良がでにくくなったりします。またチューブの露出は感染の原因となり、一度感染が起ってしまうと、もともとの視機能を維持することが難しくなってしまいます。</p> <p>当院ではチューブの露出を防ぐため、チューブを患者さん本人の強膜とご遺体からいただいた強膜の2つで覆う方法（2重フラップ法）を報告し、インプラントチューブの露出が少ないことを報告しました。しかしながらバルベルト緑内障インプラント手術の2重フラップ法におけるインプラントチューブ露出の長期的な頻度は不明なままでした。我々は、難治性緑内障患者に対して、2重フラップ法を用いたバルベルト緑内障インプラント手術の術後5年間のチューブ露出抑制効果を検討するために本研究を実施します。</p> <p>バルベルト緑内障インプラント手術の2重フラップ法におけるインプラントチューブ露出頻度を検討することで今後同じ手術を受ける患者さんに対してどの程度チューブ露出が起こるかを説明する根拠となります。</p> <p>【研究の方法】 診療録による後ろ向きの調査を行い、インプラントチューブ露出頻度、視力、眼圧、点眼スコアを調査いたします。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2025年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 論文掲載を予定しています。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法	主要評価項目：術後5年のインプラントチューブ露出頻度 副次的評価項目：視力、眼圧、点眼スコア

(他機関への提供の有無)	他機関への情報の提供：無
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)	研究責任者：富山大学附属病院 眼科 教授 林 篤志
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 眼科医局 076-434-7363</p> <p>FAX 076 - 434 - 5037</p> <p>E-mail <a href="mailto:otsuka@med.u-toyama.ac.jp">otsuka@med.u-toyama.ac.jp</a></p> <p>担当者所属・氏名 富山大学附属病院眼科 大塚光哉</p> <p>研究対象者等からの相談窓口 電話対応</p>